

第29回 都市環境エネルギーシンポジウム 開催報告

1. 主催：一般社団法人 都市環境エネルギー協会

後援：国土交通省、環境省、横浜市温暖化対策統括本部

協賛：(一社)日本熱供給事業協会、(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター
(一財)コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
(一社)日本建築学会、(公社)空気調和・衛生工学会、
(公社)日本都市計画学会

特別協力：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

2. 日時：令和4年12月2日(金) 13:30～16:35

3. 会場：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目6-3

MMパークビル 5F

TKPガーデンシティ PREMIUM みなとみらい ホールE

4. テーマ：「脱炭素化の都市づくりを考える」シンポジウム

5. プログラム：(敬称略)

基調講演「脱炭素社会と都市のエネルギーシステム」

横浜国立大学 副学長

佐土原 聡

基調報告「脱炭素化に向けたまちづくりに関する国土交通省の取組み」

国土交通省 大臣官房技術審議官(都市局担当)

菊池 雅彦

(代理) 都市局 市街地整備課長

鎌田 秀一

基調報告「東京ガスのCO₂ ネット・ゼロに向けた取組み」

東京ガス㈱ 執行役員 法人営業本部長

小西 雅子

基調報告「脱炭素先行地域 横浜市の取組みと課題」

横浜市 温暖化対策統括本部 プロジェクト推進課長

松下 功

パネルディスカッション

【コーディネーター】

早稲田大学名誉教授 (当協会理事長)

尾島 俊雄

【パネリスト】

国土交通省 都市局 市街地整備課長

鎌田 秀一

環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 課長

筒井 誠二

特定非営利活動法人 アジア都市環境学会 理事(当協会理事)

中嶋 浩三

東京ガス㈱ カスタマー&ビジネスソリューションカンパニー

企画部 エネルギー公共グループマネージャー

清田 修

横浜国立大学 副学長

佐土原 聡

6. シンポジウム入場者数

有料受講者 108名(会員72名、一般20名、学生17名)

中央官庁・自治体・団体機関等 14名

講師・協会関係者 22名

合計 145名

7. 総括

CO₂排出量の増加に伴い、近年、異常気象などの気候変動影響が地球規模で増大しており、わが国では、台風や豪雨による大災害が毎年発生する事態になりました。持続可能な成長のためには、社会全体を「脱炭素化」へ大胆かつ速やかに転換していくことが不可欠です。また、都市の安全・安心に寄与するためのBCD機能強化も必要です。横浜市は「SDGs 未来都市」に選定され、早くから「Zero Carbon Yokohama」を宣言され、「みなとみらい21地区」が、本年4月に「脱炭素先行地域」に選定されるなど、SDGsへの取組みは素晴らしいものがあり、本年は横浜市で開催しました。

今年のシンポジウムも新型コロナウイルス禍の状況下でありましたが、web開催とせず、対面形式の開催と致しました。コロナ対策で、席の余裕をみて、定員を設定いたしました。定員ギリギリの参加者となりました。前半の基調講演・基調報告、に続き、後半のパネルディスカッションでは、最初に登壇者の方々に、ショートプレゼンをお願いいたしました。登壇者の皆様より示唆に富む貴重なご見識をご披露いただくことができました。その後、会場からの質疑応答を中心に、パネルディスカッションが展開されました。

アンケートでは、今年は75%が東京からの参加者でした。その参加目的は、脱炭素、エネルギー、地域熱供給が主要な目的であり、聞きたいテーマとしては、未利用・再生エネルギーと脱炭素化が大きな割合を占めていました。満足度については、会員企業、自治体、一般の参加者からも大変好評でした。

また、現場見学会は、コロナ禍の中、今年度は中止とさせていただきました。最後に、シンポジウムにご参加の皆様、熱心にご講演いただいた講演者の皆様に深く御礼を申し上げます。



基調講演：佐土原先生



基調報告：鎌田課長



基調報告：小西本部長



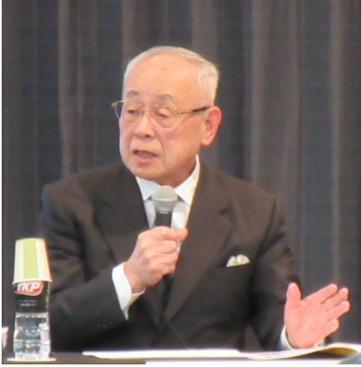
基調報告：松下課長



基調講演・基調報告

— パネルディスカッション —

【コーディネーター】



尾島理事長

【パネリスト】



国交省：鎌田課長



環境省：筒井課長



中嶋理事



東京ガス：清田 GM



横浜国大：佐土原先生



パネルディスカッション風景